

1 学校教育目標

考える子 思いやりのある子 鍛える子 よく働く子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「子供が大切にされる学校」＝「信頼される学校」である ・子供の知を大切にする学校（学力定着と向上、自らわかる喜びと学ぶ意欲の達成） ・子供の徳を大切にする学校（豊かな心、思いやりの心、いじめを起こさない心の体得） ・子供の体を大切にする学校（たくましい体、自ら鍛える意欲、心身ともに健やかに育成）
○児童・生徒像	・考える子（基礎的・基本的な学力と自ら学ぶ力や判断力を身に付けた子） ・思いやりのある子（多様な考えを認め合い、他を思いやる心を身に付けた子） ・鍛える子（運動に親しみ、心身を鍛え、健康で安全な生活を目指す子） ・よく働く子（自己責任を果たす態度や協力する態度を身に付けた子）
○教師像	・社会人として常識のある教師（服務に厳しく、誰からも信頼される存在） ・教育公務員として専門性のある教師（児童理解、教材研究、指導技術を追究する存在） ・教育愛と使命感のある教師（特別支援教育を理解し、推進できる存在）

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状

児童数は592名18学級、家庭数は474家庭である。日本語教室（平成18年度から）特別支援教室「わかば」（平成28年度新設）が設置されている。児童は落ち着いて学習活動に取り組み、数年来継続してきた基礎学力の向上の組織的方策の効果が現れ、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。

教員の年齢層は、若手教員から経験豊富な教員までバランスが良い。授業にも行事等にも熱心に取り組み、児童を育て成果を出している。保護者・地域の学校への協力度は比較的高く、概ね好意的に支援をいただいている。PTA組織・開かれた学校づくり協議会・桜友会（PTAOB会）等が、長年様々な面から学校を支えていただいている。これら地域の応援隊と連携を密にとり、児童の現状と課題に応じた新しい方策や連携の在り方を検討し、改善を図る。

重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、確かな学力を身につけさせる)

◎パワーアップタイム、放課後学習が定着し、基礎的・基本的な学習内容の定着について教員の意識が向上した。

◎かけ算九九テストなどを通して、算数の基礎的内容の定着が図られた。

◎校内授業研究・小中連携授業研究とも、外部講師や管理職が講師となり、新指導要領改訂の趣旨について研修を深めることができた。

●落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができたが、学習規律の徹底については引き続き指導を継続する必要がある。

●家庭学習の充実に向けて、見通しをもてる学習課題の工夫や家庭学習手引きの活用などが課題である。

●校内授業研究・小中連携授業研究とも、主体的に問題を解決する児童生徒の育成を目指し、活用力の育成に向けて教材研究を深めることが課題である。

重点的な取組事項－2 心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

◎認知したいじめの実態等に関して、いち早い情報共有と教職員の連携により素早く対応した。

◎特別支援コーディネーターを中心に、児童に関する情報共有を校内外で活発に行いきめ細かく児童や保護者のニーズに対応した。

◎落ち着いた雰囲気の中で、一年間の学校生活を実現することができた。

●特別活動の充実によって、充実感・満足感を感じる学校生活の実現を図ることが課題である。

●取組について保護者・地域に向けて積極的に情報発信していくことが課題である

●より積極的な保護者の啓発により理解と協力を得て、登下校時のマナー、交通ルール遵守の指導徹底を図ることが課題である。

●専門機関等と連携し、不登校傾向児童に対する個別のケアを継続することが課題である。

重点的な取組事項－3 体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

◎歯科受診率が前年度比わずかではあるが向上した。

◎区のと組を生かしながら、食育についての校内掲示や放送などを充実させることができた。通年残菜率 %

●一流選手をゲストとして招くなどより積極的な取組みが課題である。

●専門家から教員が研修を受けるなど、投力についての指導力向上を図ることが課題である。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上(基礎基本の定着を図り、確かな学力を身に付ける)	◎	◎	◎	◎	◎
2	心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	○	○	◎	○	○
3	体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	◎	◎	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上 (基礎的・基本的な学習内容の定着を図り確かな学力を身につけさせる)
-------------------	---

A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着	平成32年2月予備調査(現学年内容) 全学年 国語 85%以上 算数 85%以上

B 前年度の取組内容	
項目	具体的な方策
校内研究活動等の充実・課題共有した小中連携活動の充実	・社会・理科における足立スタンダードの活用と定着 ・各研究授業「身に付けさせたい力」を明確にした授業づくりと評価。
基礎基本の確実な定着に向けた学習の場	・朝学習(パワーアップタイム)やかけ算九九テスト、家庭学習課題として漢字振り返りプリントの実施
基礎学力上配慮を要する児童への個別指導の充実	・放課後学習、夏季学習教室など、教員1人が1～2名の児童を担当する個別指導の時間を充実。

C 前年度の成果と課題

<成果>
 ◎パワーアップタイム・放課後学習が定着し、基礎的基本的な学習内容の定着について教員の意識が向上した。「履修主義から習得主義への転換」が図られてきている。
 ◎かけ算九九練習では、教員とともに6年生が下学年の学習状況を確認し指導するなど活発な取組を行った。また、算数科足立スタンダードを基本とする授業展開が定着し、基礎的内容の定着が図られた。
 ◎校内授業研究・小中連携授業研究とも、外部講師や管理職が講師となり、新指導要領改訂の趣旨について研修を深めることができた。校内授業研究6回、小中連携授業研究で7分科会各3回の研究授業を実施した。

<課題>
 ●落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができたが、学習規律の徹底については引き続き指導を継続する。また、教室環境の整備をしっかりと進め、より落ち着いた学習環境づくりに取り組む。
 ●見通しをもてる家庭学習課題の工夫や、開かれた学校づくり協議会が作成する「家庭学習手引き」を活用して、学校と家庭との連携による家庭学習の充実を図る。
 ●校内授業研究・小中連携授業研究とも、主体的に問題を解決する児童生徒の育成を目指し、活用力の育成に向けて教材研究を深めることが課題である。

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成 31 年度 学力向上アクションプラン」参照		
主体的に問題を解決する児童の育成に向けた校内研究の充実	校内授業研究授業 6 回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・社会・理科における足立スタンダードの活用と定着 ・6 年間を見通した問題解決の資質・能力の育成について協議
育てる力を明確にした小中連携研究の充実	瀏江小・瀏江中連携授業研究 7 分科会各 6 回実施	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の学習評価分析 2 回と、各分科会による研究授業 ・各研究授業で「身に付けさせたい力」を明確にした授業づくりと評価

重点的な取組事項－ 2	心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)
--------------------	-----------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準
充実感・満足感の高揚と、自己肯定感(低学年)・自己有用感(高学年)の育成	児童・保護者による意識調査 肯定的回答 85%以上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
望ましい生活習慣の確立	児童・保護者による意識調査 関連項目で肯定的回答 80%以上 遅刻児童全児童の 1.8%未満 (10 名以下)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活調べ」実施結果の活用 ・学校だより、メール配信システム等を活用した保護者の啓発
児童相互の円滑な人間関係構築 いじめ等の早期発見と早期解決	いじめアンケート及び児童 アンケート調査関連項目で 90%児童が友人関係に満足 いじめ等の発生の最小化	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針の徹底(日々対応) ・「瀏一版トラブル対応マニュアル」のフル活用 ・相談箱や教育相談室の活用など教育相談活動の活性化(保護者と連携した早期対応ときめ細かいケア)
不登校の未然防止と組織対応	不登校児童を前年比 50%に減少	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間連携と組織的対応の継続
特別支援教室と学級との連携推進 (発達障害等の理解推進)	学級における指導と特別支援 教室の整合性と一貫性の 確保に向けた校内委員会(年 間 10 回以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会での情報交換と指導方針の共有 ・発達障害等に関する校内研修 ・ユニバーサルデザインの導入・活用

重点的な取組事項－3	体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	
A 今年度の成果目標	達成基準	
健康についての児童・保護者の意識向上と体力向上(投力)	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答80%以上	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・運動選手による実技指導や講演会等の実施
投力の向上	体力調査ソフトボール投げ区の平均値以上	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家を活用した授業の実施 ・教員の体育実技研修
健康づくりに関する児童と保護者の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科受診率60%以上 ・児童・保護者による意識調査 食育に関する項目で肯定的回答80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信システム等広報の活用による保護者の啓発 ・PTAや企業と連携した健康に関する学習の場の設定 ・栄養士・食育リーダー・養護教諭等の連携による食育指導の充実